平成27年2月

三好史倫　学位論文審査要旨

主　査　　中　島　健　二
副主査　　渡　邊　達　生
同　　小　川　敏　英

主論文

Evaluation of Parkinson disease and Alzheimer disease with the use of neuromelanin MR imaging and ^{123}I-metaiodobenzylguanidine scintigraphy

（神経メラニンMR画像と^{123}I-metaiodobenzylguanidineシンチグラフィーを用いたParkinson病とAlzheimer病の評価）

（著者：三好史倫、小川敏英、北尾慎一郎、北山通朗、篠原祐樹、高杉麻利恵、藤井進也、神納敏夫）

平成25年　AMERICAN JOURNAL OF NEURORADIOLOGY　34巻　2113頁～2118頁

参考論文

1. 中小脳脚の海綿状血管腫からの出血により同側の小脳半球萎縮を来した1例

（著者：三好史倫、小川敏英、杉原修司、塚本和充、金崎佳子、藤井進也、神納敏夫、森岡伸夫）

平成23年　臨床放射線　56巻　1024頁～1025頁

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は、Parkinson病とAlzheimer病を対象に、神経メラニン画像とMIBGシンチグラフィーとを対比検討したものである。その結果、神経メラニン画像によればParkinson病の進行とともに黒質では緻密層外側から内側へと障害が及び、青斑核では障害が進行した。MIBGシンチグラフィーでは、Parkinson病の進行とともに左室心筋の交感神経は障害され、その程度と神経メラニン画像での黒質内側の信号強度には正の相関を認めた。また、Alzheimer病は、両検査によりParkinson病と鑑別可能であることが示された。本論文の内容は、Parkinson病における神経メラニン画像とMIBGシンチグラフィーの有用性や相互関係について詳細に報告したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。